



木下サーカス307万円寄託

山陽新聞社 医療従事者を支援
社会事業団

新型コロナウイルス感染症の治療や予防に当たる医療従事者の支援に役立ててもらおうと、木下サーカス（岡山市北区表町）は19日、寄付金307万6千円を山陽新聞社会事業団（同柳町）に寄託した。

木下サーカスは新型コロナウイルス禍で激減した収入を補うため7～9月、山陽新聞社や中国銀行などが運営する「晴れ！フレ！岡山」のサービスを利用してクラウドファンディングで支援を募り、総額3076万円を集

めた。その1割を今回の寄付に充てた。

この日、木下唯志社長ら役員4人が同事業団の松田正己理事長を訪ね、目録を贈呈した。木下社長は「皆さまからいただいたお心に胸が熱くなった。寄付はその恩返し」と述べ、松田理事長は日本医師会と岡山県医師会に届けるとした上で「夢と希望を与えるパフォーマンスを続けてほしい」と話した。

木下サーカスは新型コロナウイルスの影響で2月末から興行を中止。8月から東京・立川公演を再開したが、感染対策として入場者を通常の半分以下に制限している。

（福本尚純）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。